

土曜 ライフ・楽しむ

マスクもぽいっ ルールを守って

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



事務所が入るビルにはふた付きのボックスがあり、ごみステーションとして登録して利用し、清掃にも気をつけています。札幌市でも出せるごみの種類は曜日ごとに指定され、燃やせるごみなどは有料の黄色い専用袋に入れて出すと決められています。

そこに無断でごみを捨てる不心得者がいます。透明袋に生ごみ、紙ごみやプラスチックごみが雑多に入っています。収集担当の方に話をして鍵をつけたこともありすが、そのまま箱の上に置いていきます。ある日、ガラスにやられて散乱し、後始末に時間がかかったので、鍵作戦は断念。貼り紙も即座に破られ、何度張り直しても効果なく、また見知らぬごみが入っています。

誰かは不明ですが、収集してもらえないので、ビルの入居者で仕分けしたところ、名前がわかる書類が出てきました。夜遅くの作業らしく、疲れた体にむち打ってコソッと捨てに来るのでしょう。分別しないまま捨てるのが近所で有名になり、自分の所定の場所にはもう捨てられないのかもしれない。



「ごみと言えは、こんな笑話があるはず。上司が「いれ、ほかに」といって「言われて保管。ごみはへい、あ、れ、どいして笑すか」と尋ねた

ら、びっくりされた。大阪に転勤した人が実際に経験したことです。「ほか」といって「捨てておいて」の意味なのに、大切に保管されていたのだから、上司が驚くのも無理はありません。



北海道では「捨てる」ことを「投げる」と言いますね。ごみも投げるし、雪も、もちろん球も投げます。「投げる」の意味は「勢いよく遠くに放る」ことなので、「不法投棄」や「ごみをまき散らす」イメージがありますが、正規のごみ捨て場に捨てることを言います。

ごみの集積所のことを北海道では「ごみステーション」と呼ぶのが一般的です。北海道独自の表現と思っています。宇都宮や千葉、金沢や広島、九州各地でもこう呼んでいるようです。「ごみ捨て所」という語呂合わせもできて面白いですね。

他は「ごみ集積所」が多く、神戸は「クリーンステーション」。市のホームページに「ルールを守って出されたごみを市が収集するまでに一時的に置く場所であり、ごみ捨て場ではありません」との注意がありました。

他人のごみ、しかも最近では使用済みのマスクも多く、触るのは怖いものです。どの町でもルール違反やマナートラブルがあるようですが、こんな時期だからこそ、ルールを守りませんか、見知らぬ○○さん。